

令和4年度の調査研究について

1 研究主題 中学校の部活動における今日的課題に関する研究
～外部指導への移行の取組状況と課題～

2 調査研究の目的

中学校の部活動の在り方として、部活動の外部指導への移行についての各学校や自治体の取組状況や、校長として受け止めている課題について調査を行う。また、顧問に外部指導への考えを調査する。ここで得た内容について情報提供・事例共有を行うことで、中学校の今後の外部指導への移行に役立てることや行政への働きかけの情報とすることを目的とする。

3 調査対象 中学校:100校(尾張:50校、三河:50校) 校長:100名 部活動顧問:1621名

4 調査結果の概要 (7月調査依頼・8月末までに回答 一部抜粋)

【校長調査】

(1) 外部指導者や部活動指導員がいますか	外部指導者	部活動指導員
いる	76校	31校
いない	24校	69校

令和4年8月現在 外部指導者 総数 437名 部活動指導員 総数 78名

(2) 外部指導者(在籍 76校)や部活動指導員(在籍 31校)がいる部活動	外部指導者	部活動指導員
軟式野球	17校	4校
ソフトボール	15校	9校
サッカー	19校	3校
バスケットボール	26校	4校
バレーボール	24校	8校
陸上競技	9校	7校
卓球	31校	5校
ソフトテニス	30校	5校
剣道	30校	7校
柔道	8校	0校
吹奏楽	25校	6校

(3) 外部指導者(在籍 76校)や部活動指導員(在籍 31校)の1時間当たりの報酬	外部指導者	部活動指導員
無報酬	2校	0校
0円～ 999円	5校	0校
1,000円～1,499円	20校	9校
1,500円～1,999円	12校	17校
2,000円～	17校	5校
無回答	20校	0校

(4) 外部指導者・部活動指導員配置(配置された場合)の効果 ※複数回答可	外部指導者	部活動指導員
ア. 専門的な技術指導を受けることで部員の活動意欲や技能が高まる	93 校	94 校
イ. 一緒に指導する顧問の技術指導力の向上につながる	68 校	60 校
ウ. 部員やチームの精神面での支えになる	25 校	33 校
エ. 複数の指導者で対応することによって、安全面の配慮ができる	57 校	65 校
オ. 保護者・地域とのかかわりや交流が活発になる	16 校	22 校
カ. 教員の負担軽減につながる	71 校	93 校
キ. 転勤がないため、継続して指導できる	39 校	50 校

(5) 外部指導者・部活動指導員配置の課題・問題点 ※複数回答可	外部指導者	部活動指導員
ア. 依存しすぎて、顧問の学ぶ姿勢が欠如する	11 校	16 校
イ. 学校の指導方針(生徒指導面)とのずれが生じる	57 校	56 校
ウ. 顧問と生徒とのかかわりが弱くなり、人間関係づくりが難しくなる	22 校	22 校
エ. 指導が教育的配慮に欠け、トラブルなどが起きる	48 校	53 校
オ. 謝金(学校が報酬とは別途支払っている金額)が不足する	13 校	18 校
カ. 指導の責任の所在が不明瞭になる	43 校	58 校
キ. 人材の確保ができない	73 校	82 校
ク. その他	5 校	5 校

(6) 外部指導者・部活動指導員配置に望むこと ※複数回答可	外部指導者	部活動指導員
ア. 指導の責任が顧問か、外部指導者・部活動指導員か等の身分保障	63 校	67 校
イ. 外部指導者・部活動指導員への報酬の確保	67 校	76 校
ウ. 外部指導者・部活動指導員への謝金の確保	34 校	28 校
エ. 外部指導者・部活動指導員への災害補償の充実	65 校	59 校
オ. 外部指導者・部活動指導員による生徒指導や保護者対応	50 校	70 校
カ. その他	2 校	5 校

(7) 休日の部活動の外部指導への移行の課題 ※複数回答可	実施済校 12 校	未実施校 88 校
ア. スポーツ団体等に関すること(連携の在り方など)	8 校	50 校
イ. 指導者に関すること(指導者の質や量、指導を希望する教師等(兼職兼業)の在り方など)	9 校	85 校
ウ. 施設に関すること(学校体育施設の利用や管理、利用の推進など)	10 校	36 校
エ. 大会に関すること(今後の大会の在り方、引率や運営に係る者の負担軽減など)	11 校	65 校
オ. 責任や補償に関すること(責任の所在、保険への加入・補償内容など)	11 校	71 校
カ. 指導者の選考・採用・配置に関すること(選考条件、面接の方法、教師との関わりなど)	9 校	66 校
キ. その他	3 校	4 校

(8) 休日の部活動を外部指導者や部活動指導員へ移行するための具体的な取組(◎:実施 ○:予定)

「(7) 休日の部活動の外部指導への移行の課題」についての自由記述(主なもの)

ア. スポーツ団体等に関すること(連携の在り方など)

行政(教育委員会等)を中心とした取組

- ◎市担当課より、市スポーツ協会に登録しているスポーツ団体に指導者を依頼している。
- ◎市教委が中心となって各スポーツ団体と協議し、休日の部活動を生涯体育の観点から大きく見直そうとしている。その中で活動の場の確保や指導者の確保を目指している。

関係団体(スポーツクラブ、地域・保護者、スポーツ協会等)との連携

- ◎一部スポーツ団体と提携して、指導者を依頼している。
- ◎現在、野球部が地域のスポーツ少年団と連携して活動している。

学校(コミュニティ・スクールを含む)独自の取組

- ◎学校が地域のスポーツクラブに指導者の派遣を依頼している。
- ◎学校が独自に卒業生を中心に地域住民の指導者を募集している。
- ◎コミュニティ・スクール(地域学校協働本部)として地域在住の指導者を確保し、休日の部活動の地域移行を始めている。

移行に向けての課題・問題点等

- ・市内すべての学校に外部コーチを配置することは人数的に無理。したがって、学校を越えてチーム編成をし、外部コーチが指導し教師は携わらない活動を目指したい。となると土・日だけの指導では成立しない。
- ・本年度、陸上部のみスポーツクラブと市教委が連携し、休日に部活動指導員を派遣してくれている。しかしながら、指導員も兼業であり、都合がつかない日が多く、結局、従来通りに教員が指導する日が多くなり、指導員にゆだねることが難しいのが実態である。

<特になし 13、今後実施予定4、無回答 28>

イ. 指導者に関すること(指導者の質や量、指導を希望する教師等(兼職兼業)の在り方など)

行政(教育委員会等)を中心とした取組

- ◎市が部活動指導員を退職教員、非常勤講師、地域人材に依頼している。
- ◎市教委が教職員を対象に、市全体の中学校部活動が一本化され、クラブ化された場合に指導者となる意向があるかの調査を行った。
- ◎市教委より各学校において兼職兼業の説明を各学校で行うよう指示があった。

関係団体(スポーツクラブ、地域・保護者、スポーツ協会等)との連携

- ◎現在、野球部は、顧問に加えて生徒の家族や地域の方がボランティアで指導に参加している。
- ◎スポーツクラブが登録希望する教職員や各種スポーツ団体の方を指導者に充てる予定である。

学校(コミュニティ・スクールを含む)独自の取組

- ◎現在、顧問との関わりによって、学校が市に推薦をしている。今後は、市がスポーツ団体等や退職教員に働きかけ、外部指導者を確保してほしい。

移行に向けての課題・問題点等

- ・競技によっては指導者がとても少なく、市内全学校をカバーできない。
- ・すべて学校任せになっており、指導者を探すのが困難である。

<特になし 15、検討中4、無回答 21>

ウ. 施設に関すること(学校体育施設の利用や管理、利用の推進など)

行政(教育委員会等)を中心とした取組

- ◎体育館と武道場は行政の管理の下、鍵を渡して活動している。
- ◎現在、夜間の施設(体育館・武道場)管理は行政が行っている。今後は、休日についても行政が行ってほしい。
- ◎休日の小学校の施設管理は行政が行っている。

関係団体(スポーツクラブ、地域・保護者、スポーツ協会等)との連携

- ◎学校開放として夜間と休日にスポーツ団体に鍵の貸し出しをしている。
- ◎クラブチーム(保護者)の代表者に倉庫の鍵を渡し、用具が利用できるようにしている。
- 複数の部活動指導員を配置できれば、施設管理に責任をもってもらう予定である。

学校(コミュニティ・スクールを含む)独自の取組

- ◎セキュリティの解除等の作業のため、休日部活のための日直を教員の輪番で行っている。
- ◎休日の校舎開放には教員が立ち会っているのが現状。

移行に向けての課題・問題点等

- ・子どものけがや事故における責任がネックとなり、部活動指導員だけで指導する場面はもてていない。したがって鍵を渡すようなことも考えていない。
- ・施設管理も部活指導者(外部指導者・部活動指導員)または行政に管理をお願いしたいところだが、今は顧問となっている教員が管理している状況である。一部、再任用職員や非常勤講師などが部活動指導員として兼務している場合には、施設管理を任せられる状況である。
- ・今後、鍵の管理を交流館(地域交流施設)で行い連携していく予定。校舎内のセキュリティ問題は解決できていないことが課題である。

<特になし 22、検討中2、今後検討する2、分からない1、無回答 29>

エ. 大会に関すること(今後の大会の在り方、引率や運営に係る者の負担軽減など)

大会の在り方、参加方法等

- ◎大会へのクラブ参入については、すでにソフトボール協会が行っているので参考にするとういと思う。
- ◎中小体連主催の大会以外は参加を精選し、学校として出場する大会の数を大幅に減らしている。
- 中小体連の大会に関しては、各学校単位での参加を基本とするが、種目によっては地域部活動として、学校からは離れて参加することも検討を進める予定である。

教員による対応

- ◎現状は顧問が同行している。(引率・監督、場合によっては大会運営等も。また、対応等にも不安があるため、現状は、部活動指導員だけに任せられる状況とは言えない。また指導員のための仕組みや制度がない)
- ◎中小体連の大会は、必ず教員の引率。

部活動指導員等による対応

- ◎モデル実施校から、地域指導者(外部指導者)による引率を始めている。
- 今後大会については部活動指導員のみでの引率・監督をしたい。教員は指導に携わらないようにしていきたい。
- 大会等について、部活動指導員のみで引率・監督できる仕組みを構築する予定である。出場できる大会への制限は、検討中である。

移行に向けての課題・問題点等

- ・2025年には、地域のクラブとして、中小体連の大会を含め参加する方向で進めてほしいと願っている。大会の引率は保護者が責任をもつという方向で進むことを願っている。
- ・従来の大会・コンクールへは、クラブチームに門戸が開かれる方向であるなら、逆に、学校部活動は、従来の大会・コンクールから撤退すべきだと思う。学校部活動は、あくまで趣味・趣向の合う仲間が、楽しく自主・自律的な活動を進める場とし、近隣の学校と力試しすればよいと思っている。競技志向の生徒が、専門的な技術を磨ける組織を拡充していくことは同時に必要であるが・・・。

<特になし 17、検討中2、今後検討する4、分からない1、無回答 24>

オ. 責任や補償に関すること(責任の所在、保険への加入・保障内容など)

行政(教育委員会等)を中心とした取組

- ◎市が契約している保険(ボランティア保険など)に加入。
- ◎市町の公務災害補償等に関する条例により補償。
- ◎市で任用の部活動指導員の保険は加入していない。ただし、公務災害は補償あり。

関係団体(スポーツクラブ・地域・保護者等)を中心とした取組

- ◎スポーツクラブに登録する際に、生徒は自己負担で、指導者はクラブ負担で保険に加入。
- ◎保護者に負担してもらっている。

学校独自(コミュニティ・スクールを含む)の取組

- ◎学校独自で保険には加入していない。
- 部活動指導員の保険が明確ではないため、学校独自でその手続きを進めていく予定。

<特になし 11、検討中3、今後検討する3、分からない(把握していない)2、無回答 17>

カ. 指導者の選考・採用・配置に関すること(選考条件、面接の方法、教師との関係など)

行政(教育委員会等)を中心とした取組

- ◎現在は、部活動指導員の選考・採用・配置を行政が一括で行っている。

関係団体(スポーツクラブ・地域・保護者等)を中心とした取組

- ◎地域の方に紹介してもらう。
- 地域の高校・大学・交流館(地域交流施設)等と連携した活動を取り入れていく。

学校独自(コミュニティ・スクールを含む)の取組

- ◎管理職が面接し、地域部活動についての本校の基本理念を説明した上で、外部指導者としての実績を考慮し、採用を決定(履歴書の提出も)。
- ◎外部指導者に関しては、これまでどおり該当部活動の顧問が面接をし、校長の承認を得て採用。
- まずは学校の平日の部活動と同様、学校の方針の下で進めてもらうことを原則としたい。

学校と行政が連携した取組

- ◎行政からの紹介もあるが、ほとんどが学校側で人材を確保し、面接、採用、配置は行政が行っている。
- ◎部活動指導員については、管理職または市教委との面接が行われているが、外部指導員については、各部顧問が面接し、管理職に報告する場合が多い。
- ◎部活動指導員希望者には、行政主催の研修を受けてもらい、各校管理職・顧問等の面接を受けてもらう。

移行に向けての課題・問題点等

- ・行政からの具体的な指導者の選考等の方針が示されていない。学校独自で決定や判断をすることは難しい。
- ・部活動指導員の選考・採用・配置は行政で実施すべきであり、そのシステムを構築してほしい。

<特になし 11、検討中2、今後検討する3、分からない1、無回答 15>

キ. その他

行政(教育委員会等)を中心とした取組

- ◎検討会議を行政、または校長会が主体となって立ち上げた。(メンバー:校長(小1・中2:運動・文化)、学識経験者(大学准教授)、市スポーツ課・スポーツ財団、スポーツ協会理事、種目団体理事、市P連、部活動指導員など)
- ◎検討会議では、今後の生徒数の減少を鑑みて、休日の地域移行に留まらず、市全体の中学校部活動を一本化し、クラブ化する計画を推し進めている。

関係団体(スポーツクラブ・地域・保護者等)を中心とした取組

- ◎市体育協会の理事会で、事務局より各団体の代表へ、中学生の休日部活動の受け入れについて説明あり。

学校独自(コミュニティ・スクールを含む)の取組

- ◎校長会の代表が先進校に視察に行った。
- ◎地域会議で校長が説明。また、生徒や保護者への説明も校長、または地域学校協働本部が主体で実施。

移行に向けての課題・問題点等

- ・移行するための具体的な取組、方向性は何もみえない。検討会も立ち上がっていない。見通しもない。
- ・土日だけの地域移行はメリットはあるが、平日の指導との整合性、土日に問題が発生した場合の対応など、大きなデメリットも予想される。正直推進すべきかまだ迷っている。
- ・働き方改革の視点から従来のような部活動の存続は困難である。個人的には「学校部活動をどうしていくのか」と「競技力の向上のためにどうしていくのか」を分けて考えることが必要だと思っている。その結果、大会の在り方も見えてくるはずである。従来の形を崩すことなく、指導者を据え代えようとしても複雑化するだけで、新たな問題が生まれるだけではないか。一度、すべてを白紙に戻し、新たに学校、地域、スポーツ団体、行政それぞれが、他の組織に依存することなく、目的を達成するためには何が必要であるのかを考え、その上で連携すべきところは連携するといったことを考えなければ、今の流れは結局頓挫すると思っている。

<特になし 11、検討中2、今後検討する1、分からない1、無回答 23>

【顧問調査】

外部指導者や部活動指導員について		回答数 1621 名
ア. やりたい	175 名	10.8%
イ. やってもよい	515 名	31.8%
ウ. やりたくない	931 名	57.4%

(ア. やりたい、イ. やってもよい 選択者) 外部指導者や部活動指導員をするなら		回答数 690 名
ア. 勤務校の部活動がよい	458 名	66.4%
イ. 勤務校以外の部活動でもよい	198 名	28.7%
ウ. その他	24 名	3.5%
無回答	10 名	1.4%